

[調査会 NEWS 613](20.3.28)

■短波放送「しおかぜ」新たな周波数のお知らせ

3月末から「しおかぜ」の周波数が変わります。

朝の放送（5：30～6：00） 3月31日から 6045キロヘルツに変更

夜の放送（23：00～23：30） 3月30日から 6020キロヘルツに変更

前号ニュースでお知らせした通り、それぞれ、同時時間帯にもう一つの周波数が確保されており、今後北朝鮮側からの妨害電波が加わった場合は逐次周波数を変更して対応します（猫の目作戦）。別途に確保してある周波数も上記の周波数に近いところにありますので、チューニングを回せばそれほど苦労せずに見つけることができます。

なお、このような動きについて、北朝鮮では以前から察知していたようです。606号のニュースでお知らせしたように、北朝鮮の日本語放送「チョソンの声」の2月21日の放送では下記の調査会を非難する論評を流していますが、その中でも「新たな周波数の確保」という一節があり、こちらの動きに神経を尖らせていることが分かります。

今後北朝鮮がどのように対応してくるかによって向こうの状況も明らかになってきます。
軍事的に言えば一種の「威力偵察」の効果も期待されます。

(参考) 2月21日 21:00からの「チョソンの声」放送

続けてチョソン中央通信社の論評をお送りします。

「無駄なことをやめるべき」

先日、日本の極右団体である特定失踪者問題調査会が拉致被害者宛の手紙を共和国に送ることにした。これに従い調査会は昨年に次いで今年またもや南チョソンで多くの反共和国宣伝物をゴム風船に載せてとばそうとしている。

特定失踪者問題調査会は共和国による拉致被害者説を流してその真相が明らかになり、人々の非難を受けてきた悪名高い謀略団体だ。これまで日本の極右勢力が拉致問題を扱うラジオ放送の開設、短波ラジオの新たな周波数の確保などと騒いできたが、変わったものは一つもない。

破綻して久しい拉致問題を持ち出して日本が得たのは国際社会のやっかいな存在と認められたことだけだ。日本の極右勢力がこうした現実を見ず、引き続き無謀に振る舞う場合、それは政治的破滅をいっそう早めることになるだけだ。

「無駄なことをやめるべき」、チョソン中央通信社の論評をお送りしました。

■戦略情報研究所講演会

戦略情報研究所では以下の通り次回講演会を開催します。

- 1、日程 4月1日(火) 18:30?20:30
- 2、場所 UIゼンセン会館2階会議室(千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549)
※市ヶ谷駅下車3分
- 3、講師 ペマ・ギャルポ 桐蔭横浜大学教授
- 4、テーマ 「チベットは今一どうなっているのか、私たちは、日本は何をすべきか」
- 5、参加費 2000円(戦略情報研究所会員は無料)
- 6、ネット中継 これまでと同様講演会の当初1時間をインターネットで生中継します。地

方の方で出席できない等の場合はインターネットでご覧下さい。中継は下

記のネットライブのサイトから <http://www.netlive.ne.jp/>

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場

合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★4月5日(土)13:30～ 講演会(拉致問題を考える牛久市民の会主催)

●牛久市エスカード生涯学習センター(JR常磐線牛久駅西口 029-874-3131)

●問い合わせ:029-872-6547 田中代表

★5月11日(日)大分集会(救う会大分主催)

●大分市

●代表荒木が参加

★6月28日(土)鶴岡集会(庄内ブルーリボンの会主催)

水居 明（みずい・あきら）

性別：男

生年月日：昭和 11 年 3 月 1 2 日

失踪年月日：昭和 63（1988）年 7 月 17 日

当時の年齢：52 歳

当時の身分：不動産会社経営

失踪場所：宮崎市の大淀川河口

失踪の経緯：釣り仲間の友人・林田幸男さんと、林田さん所有の遊漁船「共擁丸」（1ト

ン）で午前四時頃出港、その後消息を絶つ。油津海上保安部に届け出。海と

空から捜索を続けたが見つからず。パーソナル無線を持っていたのに連絡が

ない。べた凧だった。当時近くの海岸では不審船が目撃され、警察も注意を

呼びかけていた。

1000 番台とした根拠

・林田幸男さん（平成 16 年 5 月 21 日に 1000 番台リスト第 5 次発表）とともに失踪。

・失踪当日はべた凧。海上保安庁、自衛隊などが海と空から宮崎県南部、四国沖まで捜

索したが、船の破片やクーラーボックス類さえ見つからなかった。また周囲に衝突の

キズのある船などもなく、当て逃げなどの事故の可能性はきわめて薄い。

また何らかの船のトラブルによる漂流も、船が新しいことや、船に積んでいたパーソ

ナル無線での救援要請がなかったことからほとんど考えられない。

・1980 年には原救晃さんが宮崎県の青島海岸から拉致されるなど実際に拉致が行われて

いる。また 1981 年には日向市で作業者が逮捕、さらには 1985 年には不審船がするなど、

二人が失踪した宮崎県海岸から沖にかけては、拉致をはじめとする北朝鮮の活動の拠

点である可能性が高い。また当時県警本部も、こうした不審船や作業者の活動に対し

注意を促すチラシを各戸に配布していた。

■以下の情報にお心当たりの方は、是非、特定失踪者問題調査会までご一報ください。

1978 年頃に失踪。失踪当時の年齢は 26 歳頃。失踪場所は不明。未婚。息子が一人で、現在、当該女性の母親が養育している。

*田口八重子さんと類似(1978 年失踪、当時 22 歳、子どもが二人)していますが、微妙に異な

っており、別人の可能性がります。

■「J S R しおかぜ」周波数変更と猫の目作戦について

3 月末の周波数の改変期に伴い「J S R しおかぜ」は 3 月 30 日夜の放送より、周波数の変更行います。周波数につきましては総務省での手続きが完了しておりませんので、手続き終了後発表いたします。

またこの度より、かねてから希望していた妨害電波対策として、複数周波数を使った対応

策が実現することになりました。これは総務省の皆様のご尽力、そしてNHK、KDDI（株）の皆様にご協力により運用可能となり、関係する皆様方に心から感謝申し上げます。

猫の目作戦とは文字通り、北朝鮮の発信する妨害電波に対応し、周波数を変えていく作戦です。短期的には妨害電波が発信された事を確認し次第、数日中には別の周波数から放送を発信します。妨害は当然新しい周波数へ追いかけて来ることにはなりますが、その時点また元の周波数から放送を発信するように、ころころ変えて攪乱することにも繋がります。

もちろんこちらの発信できるすべての周波数へ妨害を出して来ることも十分考えられますが、先日の2月14日には中国製ラジオにより平壤でも妨害電波に負けることなくしおかげが受信出来る事を確認し、また近隣のソウルや中国でも十分聴取可能との受信報告が入っていますので、ある程度の受信障害は否めませんが、北朝鮮全土から考えれば十分な受信範囲は確保できていると考えています。また長期的には、妨害電波の状態を考慮しながら伝搬状態のより良い周波数を選択し、出来るだけ聴取者に聴きやすい状態を確保出来る巾が大きく広がったと考えています。

聴取者が放送を見失う恐れについては、これまでの聴き取りからも、ダイヤルを回し、チューニングがあった所を聴く習慣があり、見失いにくくするように近辺の周波数帯を選択し、

放送時間帯を変えていないこと。放送内で順次新周波数の告知を行うなどの対策を行っていただきます。

政府広報「ふるさとの風」も3月から4波になり、「J S R しおかぜ」も今回の猫の目作戦導入で、より対北放送が充実し情報注入に繋がればと考える次第です。

■バルーンプロジェクトについて

バルーンプロジェクトは現在も韓国の基督北韓人連合（李明ンボク代表）が同団体作成のビラに混ぜて調査会のビラを飛ばして下さっていますが、このたび家族会と共同であらたなビラを作成し(文面は誤植の訂正程度ですが、団体名に家族会が入ります)、5月24日（予定）で日本から参加して北朝鮮隣接地域（西海岸のペンニョン島ないし内陸部）からバルーンを飛ばす予定です。

■戦略情報研究所講演会

戦略情報研究所では以下の通り次回講演会を開催します。

- 1、日程 4月1日（火） 18:30～20:30
- 2、場所 UI ゼンセン会館 2階会議室（千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549）
※市ヶ谷駅下車3分
- 3、講師 ペマ・ギャルポ 桐蔭横浜大学教授

4、テーマ「チベットは今一どうなっているのか、私たちは、日本は何をすべきか」

5、参加費 2000円（戦略情報研究所会員は無料）

6、ネット中継 これまでと同様講演会の当初 1 時間をインターネットで生中継します。

地方の方で出席できない等の場合はインターネットでご覧下さい。中継

は下記のネットライブのサイトから <http://www.netlive.ne.jp/>

■調査会役員の参加する講演会等の予定

（公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場

合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります）。

★4月5日（日）13:30～「講演会」（拉致問題を考える牛久市民の会主催）

●牛久市エスカード生涯学習センター（JR常磐線牛久駅西口 029-874-3131）

●問い合わせ：029-872-6547 田中代表

★5月11日（日）大分集会（救う会大分主催）

●大分市

●代表荒木が参加

★5月28日（土）鶴岡集会（庄内ブルーリボンの会主催）

●鶴岡市

●代表荒木が参加

★7月6日（日）13:00～「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」（救う会神奈川主催）

●横浜情報文化センター（みなとみらい線日本大通り駅前）

[調査会 NEWS 611](20.3.25)

※お詫び　すでにお送りしているニュースのうち、608号は同じ号数の別の内容が3月11日と

14日に出ております。本来3月14日を609号にすべきでしたが、すでに610号まで発行され

ているため、608号が2回出ていることとなります。混乱を来す可能性があります。ご了承

承賜りたくお願い申し上げます。

■明日26日の記者会見について

報道各位

明日の記者会見の内容は次の通りです。

- ・1000番台・0番台リスト各1名発表
- ・しおかぜの周波数変更と妨害電波対策について
- ・バルーンプロジェクトについて
- ・他

これまでと同様(株)Netliveのご協力でインターネットによる生中継を行います。会見に

参加できない方はそちらをご覧ください。Netliveのホームページは
<http://www.netlive.ne.jp/> です。

※なお、4月の定例記者会見から、会場が別の場所になります。詳しくは次回会見のお知らせ

せのときご連絡しますが、これにともないインターネットによる生中継ができなくなる可

能性があります。その場合は会見終了後録画したものを流す等の対応にさせていただきます

すのでご了承下さい。

■戦略情報研究所講演会

戦略情報研究所では以下の通り次回講演会を開催します。ふるってご参加ください。

1、日程 4月1日(火) 18:30～20:30

2、場所 UIゼンセン会館2階会議室(千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549)

※市ヶ谷駅下車3分

3、講師 ペマ・ギャルポ

4、テーマ「チベットは今一どうなっているのか、私たちは、日本は何をすべきか」

5、参加費 2000円(戦略情報研究所会員は無料)

6、ネット中継 これまでと同様講演会の当初1時間をインターネットで生中継します。

地方の方で出席できない等の場合はインターネットでご覧下さい。中継

は下記のネットライブのサイトから
<http://www.netlive.ne.jp/>

(講師紹介)

昭和28年6月18日生 53歳

出身 チベットのカム地方ニヤロン(現在の中国四川省)生まれ

学歴 モンゴル国立大学政治学博士取得

経歴 昭和40年12月 来日

埼玉県の中、高校で学び、亜細亜大学法学部卒業、

上智大学大学院中退、東京外国語大学研究生
終了

昭和55年～平成2年 ダライ・ラマ法王アジア・太平洋
地区担当初代代表

平成 8 年～平成 16 年 3 月 岐阜女子大学 教授
平成 9 年 拓殖大学 海外事情研究所 客員教授
平成 16 年 4 月 桐蔭横浜大学・大学院 法学部・法学研究
科 教授
平成 17 年 11 月 日本に帰化
平成 19 年 モンゴル大統領顧問（社会・文化担当）就
任
現在 桐蔭横浜大学・大学院 法学部・法学研究
科教授・
国際交流センター長

■調査会役員の参加する講演会等の予定

（公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員
が参加する場

合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります）。

★4 月 5 日（日）13:30～「講演会」（拉致問題を考える牛久市民の会主催）

●牛久市エスカード生涯学習センター（J R 常磐線牛久駅西口 029-874-
3131）

●問い合わせ：029-872-6547 田中代表

★7 月 6 日（日）13:00～「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集
会」（救う会神奈川主催）

●横浜情報文化センター（みなとみらい線日本大通り駅前）

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ：090（9816）2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★8 月 24 日（日）14:00～「北朝鮮拉致問題を考える国民の集いイン富山」（富
山県拉致議連・救う会主催）

●富山市

経済制裁は継続されるといのが下馬評で、私もそう思ってきたのですが、ここに来て「制裁を解除するのではないか」という声が聞こえてきています。

まだ確証はないですし、おそらく今政府に聞いても「そんな予定はない」と答えるだけでしょうが、一部には外務省がすでにその準備に入っているとの話もあります（マスコミの皆さんはちょっと気をつけておかれた方が良いでしょう）。北朝鮮にすれば米国の制裁解除は実現しそうで実現せず、一方で中国からは締め上げられてにっちもさっちもいなくなっている状態です。そうなれば行く先は日本ということになり、この流れは平成 14(2002)年の 9.17 第一次小泉訪朝に至る流れと似ており、あるいは北朝鮮側から何らかのメッセージがあるのかも知れません。

ただ、いずれにしても違うのは、6 年前少しはあった金正日のリーダーシップも今は地に落ちているということで、そうなる死亡と言った人の生存を認めるとか、新たな拉致を認めるとか、誰か被害者を返すなど、日本側が当然されてしかるべきだと思っていることは、誰も決断できないのではないかと思います。

結果も出ない状態でせつかく続けてきた制裁を解除してしまえば、これまでの努力が水の泡になる可能性もあります。それより、北朝鮮に対してはもっと明確なメッセージを出し続けなければなりません。私はこの際某元幹事長だろうが親朝人士だろうがジャ

一ナリストだ

ろうが、山ほど北朝鮮に送って内部を攪乱し、「日本人は何が何だか訳がわからないが、と

もかく拉致問題が解決しなければどうしようもない」と思わせるべきだと思えます。もちろ

ん私たちも可能であればぜひ行きたいと思っています。

いずれにしてもほとんどの人が「制裁解除なし」と踏んでいるだけに、4月13日に向けた

動きは要注意です。もう時間がないとも言われるものの、裏技が無いとは言えません。杞憂

に終わればそれに越したことはありませんが。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場

合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★3月23日(日)14:00～「拉致被害者と家族の人権を考える市民集会」(同会実行委員会主催)

●藤沢産業センター(JR・小田急藤沢駅北口より徒歩5分・藤沢郵便局隣り)

●代表荒木が参加

●問い合わせ:090(9816)2187又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★4月5日(日)13:30～「講演会」(拉致問題を考える牛久市民の会主催)

●牛久市エスカード生涯学習センター(JR常磐線牛久駅西口 029-874-3131)

●問い合わせ:029-872-6547 田中代表

★8月24日(日)14:00～「北朝鮮拉致問題を考える国民の集いイン富山」(富山県拉致議連・救う会主催)

し上げます。

1、日時 3月26日(水) 14:00～

2、場所 調査会事務所3F

3、内容

「しおかぜ」について

バルーンプロジェクトについて

新ポスターについて

※なお、いつもと同じように記者会見についてはインターネットで生中継する予定です。

当日この時間に(株)ネットライブのホームページからご覧ください。

<http://www.netlive.ne.jp/>

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場

合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★3月23日(日)14:00～「拉致被害者と家族の人権を考える市民集会」(同会実行委員会主催)

●藤沢産業センター(JR藤沢駅北口より徒歩5分・藤沢郵便局隣り)

●代表荒木が参加

●問い合わせ:090(9816)2187又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★4月1日(日)13:30～「講演会」(拉致問題を考える牛久市民の会主催)

●牛久市エスカード生涯学習センター(JR牛久駅西口 029-874-3131)

●代表荒木が参加

●問い合わせ:023-885-5175 田中代表

★8月24日(日)14:00～「北朝鮮拉致問題を考える国民の集いイン富山」(富

多く、「あらためてご本人の御遺徳を偲ぶ場を設けたい」との声が少なくありませんでした。そのため、法律家の会でご家族と連絡をとられ、次の日程で墓参、会食をさせていただくこととなりました。生前の故人とつながりのある皆様にご報告する次第です。

参加ご希望の方は 3 月 19 日までに調査会にご連絡をお願い致します。メールの場合は荒木アドレス (kumoha351@nifty.com) 宛ご連絡ください。

日 時 4 月 6 日 (日) 13:00～

集合場所 「つくば家」西武新宿線小平駅下車北口 (小平霊園側) から霊園方向に向かって右側

お墓の場所 都立小平霊園 (西武新宿線小平駅下車)

墓参の後追悼の会 (食事会) が予定されています。

■戦略情報研究所講演会

以下の通り次回講演会を開催します。ふるってご参加ください。

- 1、日程 3 月 21 日 (金) 18:30～20:30
- 2、場所 UI ゼンセン会館 2 階会議室 (千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549)

※市ヶ谷駅下車 3 分

- 3、講師 稲川和男・映像教育研究会代表
- 4、テーマ 「ビデオカメラを通して見てきた 10 年間の救出運動」
- 5、参加費 2000 円 (戦略情報研究所会員は無料)

発行責任者 荒木和博 (送信を希望されない方、宛先の変更は
kumoha351@nifty.com 宛メールをお送り下さい)

●資金カンパのご協力をよろしく申し上げます。

郵便振替口座 00160-9-583587 口座名義：特定失踪者問題調査会

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 鷹の台出張所 普通預 3810752

口座名義：特定失踪者問題調査会 専務理事 真鍋貞樹

(銀行口座をご利用で領収書のご入用な場合はメールないし FAX にてご連絡願
います)

MMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMM

MMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMM

[調査会 NEWS 608](20.3.11)

■「地村・蓮池さん 拉致工作 2幹部浮上」の記事を読んで

荒木和博

今日付の朝日新聞に1面トップで「地村・蓮池さん 拉致工作 2幹部浮上 一
警察当局
調べ 総書記の直属」という記事が掲載されていました。最近拉致問題の記事
が少ない中で
このように紙面をさいてくれたことに感謝しながら、一方読んでいて複雑な思
いにとらわれ
ました。

記事の中には「警察当局は、金総書記と李・元部長がともに写った写真など
も確認してお
り、金総書記が拉致について何らかの情報を持っている可能性がある」とみてい
る」とありま
した。そして、最後は「指示にかかわった幹部の存在が浮かんたことで、北朝
鮮が2人(李
完基・元対外情報部長と姜海竜・元副部長)の現在の消息や、金総書記と2人

の関係について

て、どう説明するかなどが今後の日朝交渉の焦点となる」と結ばれています。

基本的にはこの記事の内容には間違いはないと思います。そして、警察もそのように考えているのでしょうか。しかし、問題は、「それじゃあ、どうやって助け出すんだ？」ということなのです。

この記事の前提で、政府が本当にやる気があるなら、警察が北朝鮮に乗り込んで2人の幹部あるいは金正日に事情聴取をしなければならないはずだと思います。それができるのか。そんなことはないでしょう。そして、外務省は交渉の中で「こういう情報があるが」と聞くのが関の山ではないでしょうか。

そんなことに北朝鮮が答える訳はありませんし、答えたところで、聞くのは地村さん、蓮池さん拉致に関わる真相究明のことだけです。それ以外の拉致被害者について何も出てくるはずはありません。そして、これと別筋で拉致被害者の救出をしようとしているかと言えば、ほとんどノーに近いというのが日本の現実です。

政府はこの虚構をいつまで続けるつもりなのでしょう。助ける意志や能力がないなら、正直に言うべきであり、「一所懸命やっています」と言って国民に期待を持たせるだけなら、戦前の「大本営発表」と何も変わることはありません。やる気があるのであれば、もっと具体的な策が講じられるはずです。お役所にもそれぞれの官庁に優秀でや

る気のある人

間は山ほどいるのですから、彼らをもっと活用すべきだと思います。もちろん自衛隊も同様でしょう。

なお、記事の内容について一言言えば社会面の最後のところで「捜査幹部が腹立たしいのは『政治的な思惑で事件を利用しようとする動きがあること』だ。捜査をさらに困難にする要因は少なくない」とあることです。これは、要は「強硬な主張をする連中がいるから北朝鮮が話し合いに乗ってこない」ということなんでしょうが、語った警察の幹部は「役所の仕事をじゃまするな」と言いたいのでしょうか。それなら、助けられなかったときに警察庁の屋上で切腹でもする位の責任感を持っているのか。そうではないと思います。

警察幹部の発言も、記事のこの結論も、何か勘違いしているのではないかという気がしてなりません。

■戦略情報研究所講演会

以下の通り次回講演会を開催します。ふるってご参加ください。

- 1、日程 3月21日（金） 18:30～20:30
- 2、場所 UI ゼンセン会館 2階会議室（千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549）
※市ヶ谷駅下車3分
- 3、講師 稲川和男・映像教育研究会代表
- 4、テーマ 「ビデオカメラを通して見てきた10年間の救出運動」
- 5、参加費 2000円（戦略情報研究所会員は無料）

(講師紹介)

昭和 24(1949)年 8 月 18 日 栃木県宇都宮市生まれ

昭和 48(1973)年 早稲田大学第一文学部卒業、雑誌記者、映像教材制作会社

取締役を経て、

平成 7(1995)年 「映像教育研究会」を設立、現在に至る

映像教材制作会社勤務時代は、昭和 52(1977)年頃から、民主的労働組合の V T R ・ スラ

イド・16 ミリ映画教材のディレクターとして各種教材を制作。連合結成にあたっての V T

R 教材をはじめ、連合傘下の各産別・企連・単組の V T R など視聴覚教材やポスターの制

作、組合歌の作詞・作曲、各種教育コンサルティングを手掛ける。昭和 50 年代には、ヴェ

トナム難民からの依頼で、映画「自由への戦い」なども制作した。

平成 7(1995)年 11 月、労働組合や企業を対象として、映像教育の振興と活性化を目指す

「映像教育研究会」を設立。その一方、北朝鮮による拉致問題の解決に向けて、救う会・

家族会・拉致議連などの活動を唯一継続して映像として記録。平成 14 (2002) 年 12 月には、

「命を奪るな！ 自由を返せ！」を編集制作。米国在住カナダ人夫妻が制作した映画「ABD

UCTION」や、政府インターネット TV 「拉致～許されざる行為」などにも幅広く記録素材映

像を提供。世論の盛り上げに側面から支援してきた。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

